

## 拍手鳴り止まぬ感動の盧千恵夫人講演 台湾新幹線の模型が走り、パネルも展示

本誌編集部



台湾語で「阿輝伯」を大合唱

今上陛下お誕生日の去る平成十六年十二月二十三日、東京・池袋のホテルメトロポリタンにて、本会一年の活動を締めくくる「平成十六年・日台共榮の夕べ」を開催した。李登輝前総統訪日の吉報が入ったこともあり、参加者は当初の予定を大きく上回る二百五十名にのぼり、立見が出るほどの大盛況となった。

第一部ではまず、本会の小田村四郎会長が主催者を代表して挨拶。腑に落ちない条件をつけたものの李氏にビザを発給した日本政府の対応を評価し、また、来賓を代表して許世楷駐日代表が「よいお正月が過ぎますね」と、李氏訪日に触れた祝辞を披露した。続いて、永山英樹事務局次長が李登輝氏からの祝電を読み上げた。祝電で李氏

は「台日両国の友情は兄弟のようなものだ」とした上で「今後、両国国民はこの友情をさらに大切にし発展拡大させるべきだ」と強調した。会場からは訪日を心から歓迎する大きな拍手が沸き起こった。

メインプログラムは、駐日代表夫人で児童文学者としても著名な盧千恵氏が、「私と世界人権宣言―深い日本とのかかわり」と題して講演された。

盧夫人は冒頭、今上陛下のお誕生日に、また自身がクリスチャンであることからイエス生誕の日に、そして李氏の訪日に、それぞれ祝意を示した。

留学した国際基督教大学で世界人権宣言に触れたときの衝撃に触れ、その意義を認識することとなった中華民国政府による台湾人への人権蹂躪は、

「花は咲き乱れ鳥はやかましいほど鳴いていた台湾を、砂漠のような色のない社会へ変えてしまうほどの凄まじいものであった」と指摘。しかし、台湾人は知恵と忍耐と寛容の力で独裁を雲散させ「個人の利益よりも金銀財宝よりも、人権を重んじる優秀な国民になるう」という合い言葉のもと、新しい国造りに邁進してきたという趣旨の話がされた。

会場の方々にハンカチで目頭を押さえる姿が見られ、万雷の拍手は止むことがなかった。

その後、ドキュメンタリーフィルム「跳舞時代」（ダンス時代）のダイジェスト版が多田恵理事の解説を受けて上映された。この作品は、李登輝氏が自宅で鑑賞会を行うほど激賞していて、昨年五月に本会が李登輝氏とお会いした際に絶賛されていたものだ。日本時代に台湾語で歌われた多くの懐かしい歌や、当時の映像をふんだんに用いた「跳舞時代」は歴史の真実を照らし

出し、中華民国によって引き裂かれた台湾人の世代間に横たわる、心の隔たりにへの「架け橋」となるべく製作されたものである。会場からは驚きの声があり、多くの参加者がDVDを買って求めている。

司会は謝雅梅理事がつとめ和やかに進められたが、閉会の挨拶に立った黄文雄常務理事が「石原都知事が、李登輝さんの来日を妨害しようとする中国に対して『みつともない』というのを聞いてスカッとした」という感想を述べて会場から喝采を浴び、最後に、柚原正敬事務局長から李氏歓迎の活動計画内容が明らかにされると、参加者のボルテージはさらに高まった。

その余韻さめやらぬまま第二部の



拍手が鳴り止まなかった盧千恵さんの講演

「大忘年会」に入ったので、会場の盛り上がりは予想以上のものとなった。

第二部の司会は越野充博理事がつとめた。田久保忠衛副会長による開会の挨拶に始まり、中條高德・アサヒビール名誉顧問、河野昭・高雄中学校同窓会会長が祝辞を述べ、新任の陳鴻基駐日副代表が日本語で乾杯の音頭をとった。陳氏は台湾團結聯盟の副秘書長だった方であり、李登輝氏の信任も厚いという。その後、中津川博郷・衆議院議員らの祝電が披露され、梶原等・山梨県支部長、岡山文章・埼玉県副支部長、下村忠行・新潟県副支部長ら各支部代表がそれぞれの活動を報告。

会場には、鉄道ファンでもある片木裕一事務局長が世界で初めて製作した台湾新幹線の模型が走り、パネル展示も行われていたので台湾新幹線のことや日台関係など、思い思いに語り合いながら共有の時間は流れていた。

縁もたけなわに差しかかった頃、昨年の台湾李登輝学校研修団に参加した

約二十名の第一期生と台湾人留学生ら<sup>ウァンフイ、グダ</sup>が先導し、李登輝氏の賛歌「阿輝伯」(李登輝おじさんの意)を台湾語で大合唱した。それはあたかも李登輝氏が会場を訪れているかと錯覚させるほどの大合唱となった。歌を知っている人はもちろん、知らない人でも歌詞を見ながら熱唱している光景は、日本と台湾がまさに「ひとつ」になった感じがあつた。取材に来ていた台湾のテレビ局が、この様子を背景にレポートしていたのも、まさに絵になる光景だったからであろう。

閉会の挨拶に立った林建良常務理事が「中国は武士道精神に満ちあふれた李登輝さんが日本人の目を覚ましに来るのを恐れている。日本が自信を持つことを恐れているのだ」と指摘すると、何度も拍手が沸き起こった。そして最後は日台共栄を祈る恒例の万歳三唱で盛会裡に幕を閉じた。日台共栄の輪がより大きく広がり、美しい弧を描くことを期待させる会であつた。(市)